

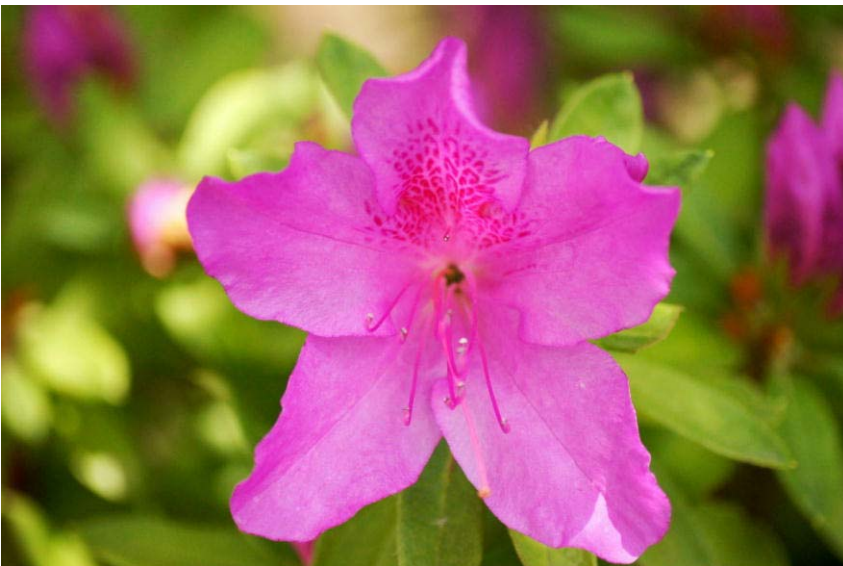
牛久：学校周辺に見る自然

第2号 牛久二小

2013年5月8日発行

＜ 春の生きもの観察 ～4年生と校庭を歩く ②植物－樹木 ＞

5 / 1、牛久二小4年生との校庭の春の生きもの観察。今回は樹木の紹介です。



「この木は何ていう名前ですか？」との声に行ってみると、たくさんの白い小さなつりがねをぶら下げたような木がありました。**ドウダンツツジ**です。ハナバチの仲間がみつを吸っているのを見かけることもあります。

左は同じくツツジ科の仲間、**オオムラサキツツジ**。ろうと型の花で花弁の先は5つに裂けていますが、その一番上には濃い赤紫の斑点がたくさんありますね。

じつはこの奥にみつがあり、虫たちにそのありかを知らせる目じるしとなっているのです。ところで、花はハチやチョウなどにごちそうするためにみつを作ったり、よいにおいを出したり、目だつ花を作ったりしているのでしょうか？それとも、私たち人間のために花を咲かせているのでしょうか？そのあたりの話も、だんだんにしてゆきたいと思います。楽しみにしててください。



バラ科サクラ属の仲間、アンズ（左）とウメ（右：牛久二中）の若い果実。まだ緑色で、やや細長い形。

ビオトープのわきで、**アンズ**の若い実を見つけました。まだ緑色で、やや細長い形でした。「ウメに似ているね～」と言ってたお友だちもいましたね。じつはバラ科の中でも特に近い仲間なのです。右は牛久二中で同じ時期に撮ったウメの^と写真。やはりまだ緑が強く、少し細長い形をしています。これらがどう変わっていくか、観察を続けてみましょう。



バラ科の仲間、サトザクラ（左）とコデマリ（右）。サトザクラのたくさんの花弁は、雄しべが変化したもの。

その他のバラ科の仲間、**サトザクラ**（左）と**コデマリ**（右）です。サトザクラはソメイヨシノなどと違い、花びらがたくさんありますね。こういうのを八重咲き（やえざき）といいます。では、おしべは？じつは八重咲きのサトザクラでは、たくさんの雄しべが^{かべん}花弁に変化したと考えられています。コデマリは、白い小さな花がたくさん集まっていますね。このかたまりを小さな手まりに見立てて名がついたようです。一つひとつの花を観察すると花弁5枚などバラ科の特ちょうをもっています。



左の写真、葉のつけ根にあるのは何だと思いませんか？じつは、**カキ**の花のつぼみです。カキは新しく伸びた枝の、葉のわきに花をつけるのです。果実の時に「へた」となるガクだけが大きく目立ちますが、へたの大きいものほど実も大きくなり、これを取り除くと小さなカキの実になってしまうのだそうです。

ガクが目だつカキのつぼみ。



あわ
淡い黄緑色をした花もありまし
た。**ニシキギ**です。秋にはまっ
赤な紅葉が、冬には枝にはった翼
が目立ちますが、春に咲く花は新
緑の緑にまぎれて目立ちません。
咲いていることに気づいてもらえ
ぬかわいそうな花と思うかもしれ
ませんが、ハエや甲虫の仲間がみ
つや花粉を求めてやってきては、
花粉を運んでくれます。植物にと
っては、花粉の運び屋が気がつい
てくれればそれでよいのですね。

淡黄緑色で目立たないニシキギの花だが、ハエや甲虫の仲間がみつや花粉をもとめてやってきては花粉を運んでくれる。



大きな花のかたまりをつけるヤシ科の仲間シュロ。温暖化などの影響か、林の中でも冬を越し大きく育っているのを見かける。



「何だ、これ〜ッ！」と拾って来てくれたのは、**シュロ**の花のかたまり。ヤシ科の仲間でもともと南九州原産(中国から入ってきたとする説も)ですが、人が植えた他に、鳥が実を食べて種子を運ぶなどし、関東から東北にまで生育しているのを見かけるようになりました。以前なら冬を越せず枯れてしまっていたのが、温暖化やヒートアイランド現象の影響なのか、あちこちの林の中でも見られます。

モウソウチクの竹の子も、あちこちからニョキニョキと伸びていましたね。皆さんの背たけくらいのもあって、並んで記念写真？も撮りました。竹の子の皮に褐色の毛がびっしり生えることで、マダケと見分けることができます。



伸びる速さがすごいことでも知られますが、研究者の記録では、1日に最大で 119cm も伸びたそうです。【理科支援員：宮内】
モウソウチクの竹の子と背くらべ。